

こまEcoまつり特集①

こまEcoまつりで“キエーロ”の展示を行います。キエーロって何だろう？

キエーロde生ごみ消エール!

キエーロってなに??

黒土に含まれるバクテリアの力で生ごみを分解する生ごみ処理器です。電気や特殊な菌などを使用せずに、手軽に家庭から出る生ごみの減量に取り組むことができます。

夏季は3~4日、冬季は2週間ほどでバクテリアが生ごみを完全に分解するので、土の量が増えることはありません。

ポクたちバクテリアが生ごみを分解します!

キエーロの特長

- ・庭でも、ベランダでも取り組むことができます。
- ・黒土の中のバクテリアが生ごみを分解するため、維持費がかかりません。
- ・正しく使えば、虫や匂いが気になりません。
- ・微生物には水分も必要なため、水切りの必要がありません。
- ・食用の廃油、汁物、腐ったもの、カビが生えたものでも投入が可能です。

キエーロを上手に使うためのポイント

- ・土の表面を乾かすためにも太陽の光と風通しを確保することが重要です。日当たりが悪く、湿気が多い場所は避けましょう。
- ・生ごみは、キエーロに投入する前にフタ付の容器で3日程度熟成させると分解が早まります。また、野菜くずなど小さく刻むことで、土になじみやすくなります。

ベランダ
deキエーロ
・ミニ



「ベランダdeキエーロ・ミニ」のモニター募集中!

家庭での生ごみを市が提供するキエーロ・ミニを使って継続的に処理していただきます。詳しくは5月1日発行の「広報こまえ」をご覧ください。

キエーロを使って、楽しみながら生ごみを減らしてみませんか!



キエーロの利用方法

①穴を掘り、生ごみを入れる

10cm程度穴を掘って生ごみを投入します。穴が浅すぎると、生ごみが空気に触れ、虫が発生します。生ごみの水分を切る必要はありません。



②生ごみと土をよく混ぜる。

生ごみは土と触れることで分解されるので、土とよく混ぜることが大切です。生ごみと土が良く絡むようにシャベルでザクザクと混ぜます。分解を進めるには、中の土に適度な水分が必要です。土を握って形が残るぐらいの状態が必要です。



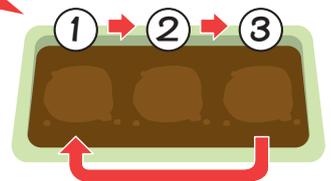
③表面に乾いた土をかぶせる(ふたをする)

虫を発生させないため、土の表面に生ごみが出ないように注意します。生ごみの分解を開始します。



④埋める場所を変えてそれを繰り返す

「ベランダdeキエーロ・ミニ」は、埋め穴は2~3ヶ所が目安です。夏季は2日~3日、冬季は4日~5日程度に1回、それぞれの穴に生ごみを投入します。※1日1回土を混ぜると早く消滅します。生ごみの種類、量によっては消滅していない場合があります。その場合は、よく土と混ぜてください。



キエーロすき・きらいリスト

だいすき ☺	すき ☺	きらい ☹	消えない ☹	
<ul style="list-style-type: none"> ● 痛んだ野菜・果物 ● 火を通した野菜・果物 ● 魚の内臓・煮汁 ● 生肉・脂身 ● 残飯・デザート類 ● ジャム・バター 	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶がら ● コーヒーかす ● 食用油(廃油) ● 残ったお酒、ジュース ● 残った揚げ物 ● もみがら、米ぬか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 刻んである野菜くず ● ジャがいも等の野菜の皮 ● 火を通した魚・肉 ● パン ● 麺類 	<ul style="list-style-type: none"> ● かんきつ類の皮 ● たまねぎの皮 ● 枝豆のサヤ ● スイカの皮 ● ごぼう・にんじん等の根菜類 ● プロッコリーの太い茎 ● 昆布 ● 魚の大きな頭や小骨 ● えび・かに・卵の殻 	<ul style="list-style-type: none"> ● 貝の殻 ● 鶏の骨 ● タケノコ・トウモロコシの皮 ● 栗の皮 ● 梅干・野菜等の種